

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第1回）議事録

- 日時 令和4年7月15日（金）13:30～15:30
- 場所 上川町役場大会議室（オンライン会議システム併用）
- 出席者 資料のとおり（上富良野町及び北海道山岳整備は欠席）

■概要

1. 開会

■大雪山国立公園管理事務所（以下事務局） 広野

- ・本日は夏場の大変お忙しい中出席いただきお礼申し上げます。
- ・2022年5月に開催された大雪山国立公園連絡協議会にて本作業部会の設置が了承された。
この作業部会の役割として、携帯トイレの利用環境の向上、避難小屋の常設トイレの改善、大雪山国立公園の携帯トイレの考え方、利用する上での環境整備、定着・浸透するための普及啓発を行っていく。
- ・また、短期的解決するための具体案、中長期的な課題に対する対応方針を検討し、登山道維持管理部会とも情報共有していく。
- ・今回は、今後の議論についての始まりとなる。情報共有をして、建設的な議論をお願いしたい。

2. 報告

■事務局 畠山

- ・大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置について
資料1の説明
特に異議なし

3. 議事

（1）大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会における検討事項について（資料2）

■事務局 広野

- ・課題の全体像を見据えた中で、短期、中長期的な課題について考えていく。
- ・携帯トイレの利用環境の改善をしていく。
- ・常設トイレの改善についても同時並行的に検討し、大雪山としての様々なトイレ問題の解決を図っていく。
- ・維持管理の仕組み、体制の整備、携帯トイレ普及宣言の一層の普及に向けて情報整理を行う。

■りんゆう観光 山崎氏

- ・現在、石室の管理運営、バイオトイレ日々の清掃。オーバーユースによりバイオトイレとしての機能が果たされていない（へりでし尿の荷下げ）基本的な構造、仕組みの再検討を要する。
- ・短期的な課題としてオーバーユースの特定日（海の日、紅葉時期）の前にはくみ取りをしてい

るが、いつも満タンになってしまう。携帯トイレの利用促進、周知。現在 2 箇所バイオトイレ、2 箇所トイレブースを設置。問題点は泊まり客、一回分の料金で何度も使っている状態である。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・多くの関係の方がトイレの問題について考えてくれること、一緒に活動をしていただいていることに感謝。様々な団体・機関の山のトイレに対してどのように考えているかを知る機会を持てたことは、ありがたい。
- ・短期的な課題として、①の裏旭野営指定地、トイレブースの設置の検討をお願いしたい。昨年のアンケート調査（携帯トイレについて）の結果の資料から、問題解決していきたい。②のバイオトイレについては、これまでの努力には感謝しているが大雪山国立公園の魅力を毀損している状態。再整備、モニタリングが重要。
- ・中期的な課題としては、将来のビジョンがまだできておらず、多くの問題解決をしていきたい。

■山のトイレを考える会 仲俣氏

- ・資料の 3－1 について、携帯トイレ回収ブースに誤操作防止カウンター設置した。具体的にはカウンターのネジが回らないように制作、現在十勝岳温泉登山口、白金温泉、望岳台に設置した。また、カウンターを押さない人もいる（7 / 15 に確認した）。
- ・回収 BOX の鍵については、観光客がゴミを捨てるため、ダイヤルキーから、カラビナに取替ええたところ、ゴミが入っていなかった。
- ・2022 年度版山のトイレマップを作成。今年も 6 月末に発送。たくさんの方に見ていただきたい。

■山岳レクリエーション管理研究会 事務局長 山口氏

- ・「全体の方向性」「議論の進め方」の整備をお願いしたい。大雪山ビジョンや携帯トイレ普及宣言を鑑み、利用者のためのトイレではなくて、大雪山の環境を守るためのトイレ整備をお願いしたい。
- ・本部会のコーディネーターとして愛甲先生をお願いしたい（トイレ整備の歴史が古いので）。
- ・全体の計画、対象地点のピックアップをする。

■十勝総合振興局 村上氏

- ・トムラウシ短縮登山口の携帯トイレ回収 BOX にゴミが混入するので、張り紙などで防止対策をしていく。
- ・環境省・新得山岳会と連携し、トムラウシ南沼野営指定地までの間へのテント型携帯トイレブースの設置を検討。

■上川南部森林署 米田氏

- ・山へ行く前にトイレ問題があるということを未経験者、初心者知ってもらうことが必要。

■新得町 （欠席のため書面で確認）

- ・令和３年度にトムラウシ短縮登山口において携帯トイレの配布を実施。トムラウシ登山道のし尿問題の改善傾向。今後も普及拡大を目指す。

■山岳舎 BEAR 佐久間氏

- ・トイレは設置後の維持管理が重要、カードリッジ式のトイレをヘリで運搬するだけの協力金は難しいので、地下に水分を浸透させて、固形物は運び出す方法でのトイレの設置はどうか。
- ・本州の山小屋を見習い、トイレ利用料を払うのはどうか。
- ・一回一回トイレにお金を払うのはとても煩雑、その上に協力金を払うのも煩雑。国立公園利用料を払い、その後払わないようにするのはどうか。

■大雪と石狩の自然を守る会 沓澤氏

- ・自然環境に負荷が多いのは登山道から外れて、トイレをすることではないかと考え、夏山シーズン、一月に一回大雪を歩き、どんなところでトイレを利用するのだろうか、トイレについて今年度から観察調査をしようとしている。

■NPO ひがし大雪自然ガイドセンター （欠席のため書面で確認）

- ・ニペソツは携帯トイレブース、石狩は登山口の常設トイレにより、いずれも、トイレ問題は顕在化していない。
- ・ニペソツ携帯トイレブースは昨年度更新したばかりだが、その資金獲得に苦労したため、次回は行政主導で行うシステム作りに期待。

■十勝自然保護協会 （欠席のため書面で確認）

- ・利用者にし尿の適切な処理を強く求めることはできないか。登山道での自然利用において利用者のし尿処理の義務化の検討。トイレ環境整備の拡充。ルールの周知、携帯トイレの普及。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・去年の旭岳の印象、携帯トイレの認知度不足。（日帰り、観光客へ認知不足）、情報発信の仕方の改善が必要。本（北海道の山）を見て登山をする人に、出版社へ携帯トイレの情報の働きかけをしてはどうか。
- ・携帯トイレについては小用だと使わない人がいる。登山協など行っていると聞いた。野営指定地など携帯トイレブースの設置、携帯トイレの推奨をもうける必要があるのでは。
- ・携帯トイレの自動販売機を作っており、500 円硬貨、100 円玉 5 枚で買うことが可能。（外貨は不可）すでに姿見駅に設置しており、興味のある方がいたら追加制作も可。（資料 3－3）

■NPO 法人大雪山自然学校 社本氏

- ・旭岳 RW 姿見駅で電力を使わない携帯トイレ自動販売機を、試験運用中。
- ・縦走や早朝に出発する人に向けて自販機を置くと（トイレを買う場所がない）、散策へいく高齢者にも人気。旭岳石室の利用者が少ないので、普及していきたい。

■事務局 広野、畠山

- ・避難小屋のトイレの再整備。老朽化している白雲岳・忠別岳避難小屋、測量調査、管理維持体制・野営指定地、登山道利用者が多いところへの携帯トイレブースの設置。
- ・普及宣言を推進し、初心者向けの携帯トイレの普及、独自の大雪山のトイレマナーを普及、情報発信。（詳細は資料 3－2 参照）
- ・大雪山国立公園管理事務所の取り組みは、白雲避難小屋、忠別避難小屋のトイレの再整備。
- ・大連協の取り組みは、中岳温泉、銀泉台への携帯トイレブースの設置。昨年度も行った黒岳石室でのキャンペーン普及活動。銀泉台の回収 BOX の設置。
- ・美瑛富士の携帯トイレブースの運用 環境省と美瑛町と美瑛富士トイレ管理連絡会が協働で維持管理を引き続き行っていく。
- ・南沼汚名返上プロジェクトについて、短縮登山口に携帯トイレ配布ボックスの設置、協力金の収受を試行。
- ・南沼の携帯トイレブースの設置、痕跡の調査、テント数カウント、登山口～南沼の間での携帯トイレブース設置の可能性について検討。
- ・高原温泉沼巡りコースの携帯トイレブースの常設化（ヒグマ監視等業務受託者の協力により

実施）。

■道央地区勤労者山岳連盟

- ・WEB が不安定のため書面で確認。

■NPO かむい 濱田氏

- ・コマクサ平 携帯トイレブースの設置 7 / 16 借地開始、7 月中に設置完成予定。
- ・大沼キャンプ指定地 7/15～24 テント型トイレブース試行設置、モニタリング、アンケート

を行う

21 日に環境省、振興局、トイレブースの設置に向けての現地調査を実施予定。

- ・NTT より携帯トイレの寄付を受け取ったが、便袋と凝固剤のみだったので、尿取りパッド、ジップロックをつけて、配布。コマクサ平トイレブース、黒岳石室のトイレブースに無料配布。石室にもおいてもらっている、層雲峡ビジターセンターで回収の数があり、ある程度効果あり。
- ・携帯トイレの使用で繁忙期のバイオトイレがあふれることがなくなるのではないかと。
- ・登山者に携帯トイレになれてもらうために、一度使ってもらいたいという希望の元、配布してみた。
- ・黒岳バイオトイレは、解決策がなかなかない。振興局と予算をとって来年度以降解決に向けて

具体的に活動予定。

■十勝総合振興局 村上氏

- ・南沼返上プロジェクトについて、野外し尿の痕跡調査プロジェクト始めた 2017 年は 50 個以上のし尿痕があったが、令和になってから年に 15～16 個、7 割の減となった。山岳会のご尽力による。
- ・登山届に携帯トイレ持参の有無の記載の欄を設け、75%の人が携帯トイレを持って登山していることが判明。
- ・南沼では、8 割～9 割のし尿痕跡減少が可能ではないか。携帯トイレ持参率イコールし尿の痕跡減少になるのではないか。日帰りの方の持参率をあげることが課題。

■北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲氏 (WEB 不安定のため事務局読み上げ)

- ・検討事項資料 2 より、携帯トイレ普及宣言を周知し、パートナー登録進めるべきでは。
- ・野営指定地の踏み分け道の把握について、ドローンなどで調査が必要ではないだろうか。
- ・野営指定地以外のし尿痕などの調査について、登山者、関係者を含めた情報収集、共有の必要性。

■美瑛山岳会 内藤氏

- ・北海道の山岳女性の方、泊まりでの山のトイレの調査をし、裏旭野営場では隠れる場所がなくトイレがしづらいという結果が出ている。
- ・携帯トイレを売っている場所について、美瑛では売っている場所が少ない、登山場所に近いところで買えるようにしてほしい。
- ・過去的美瑛富士の糞尿の散乱と比べてよくなっているが、少しマンネリ化していないか。今後の維持管理、点検パトロールがないとだめなのではないか。パトロールなどの輪番などのシステム管理が必要。チカホなどでの都市部での登山者、山岳団体を巻き込んだ活動の成果がでているのではないか。
- ・しかし、山のトイレ普及活動の最初の頃の熱気がうすれてはいないか。

【意見交換会】

■山岳レクリエーション管理研究会 山口氏

- ・NPO かむいの濱田さんに対して。以前、携帯トイレの利用について NTT 様から提供のあった期限の切れた携帯トイレを山岳トイレでは使わないのではと意見したことに反省している。実際はジップロックや消臭剤をつけて、配布したことはよいと感じている。今後使用した結果を報告してほしい。

■NPO かむい 濱田氏

- ・消臭剤ではなく、尿取りパッドをつけて配布。石室で携帯トイレを使ったことのない人にイラストをつけたポスターの掲示や、声かけをしている。

■山樂舎 BEAR 佐久間氏

- ・層雲峡立体駐車場の車中泊で冬にトイレがあるのにもかかわらず、排便する人がいる。冬に、大函あたりの滝の近くでアイスクライマーの人が小用するのを見かける。
- ・アイスクライマーなどにも、携帯トイレの周知をお願いしたい。(情報提供)

■事務局 広野

- ・山岳トイレとは別かもしれないが、全体像を見るための報告は大事である。

■旭岳ビジターセンター 宋氏

- ・佐久間氏と同じように、山岳トイレ問題として扱うべきか難しいが、ビジターセンターの駐車場で車中泊のお客様が夕方以降トイレがなく、建物の裏側などで用を足す人がいる。
- ・携帯トイレブースの整備(裏旭野営場)が必要。使いやすい環境を整えるべきでは。初心者には難しい。
- ・段ボールなどで、便座、仮 BOX があると初心者に利用しやすいのでは。

■山のトイレを考える会 仲俣氏

- ・黒岳トイレについて今年何回に分けて、登山者や管理人さんの困りごとをヒアリングし、改善策を見つけるために実態調査をする。バイオトイレは以前より携帯トイレブースの利用で水分が減っているのではないか。少しでも、し尿の量を減らすために、もしくは通常のトイレが混んで、並ぶ時のため、黒岳石室にもテントブースの増設はどうか。

■NPO かむい 濱田氏

- ・新しいトイレブースの設置において、様々な許可申請届が必要、天然記念物、環境省の届けが必要。

■りんゆう観光 山崎氏

- ・石室などの土地は、森林管理署や上川町から土地を借りているはずだが、手続きが簡単にならないだろうか。今年が難しいのなら来年以降に。

■事務局 福濱

- ・検討事項資料 No.2 より、裏旭のトイレの検討について概要を説明。今年度、裏旭、旭岳周辺登山道において携帯トイレブースの設置に向けて具体策を検討していく。裏旭や旭岳周辺登山道は風の強い場所であると認識しており、強風に耐えうる携帯トイレブースの構造や、維持管理を含めた設置費用を検討する。持続可能なトイレブースの設置に向けて検討を続けていきたい。

(2) 今後における本作業部会の進め方について

■事務局 広野

- ・今後の進め方についてご意見いただきたい。
- ・欠席されている方、意見シートを提出されなかった方からの検討課題をききたい。追加していくことも可能である。

■山岳リクリエーション管理研究会 山口氏

- ・基本的に全体像を見ていくことから始めるのはよい。情報について、様々な団体(山のトイレを考える会、NPO かむい、美瑛山岳会)の過去の情報も含めて、トイレ問題に携わっている方にお任せしていきたい。裏旭では昔、上川支庁で、円筒型の強化プラスチックのトイレブースがあったが吹き飛ばされた経験がある。いろんなトイレにまつわる情報を、「山のトイレを考える会」が情報を共有していって見たらどうか。
- ・コーディネーターをおいてはどうか。

■事務局 広野

- ・コーディネーターをおいたらどうかという意見について、資料の整理などは事務局が行うが、積極的議論を進めていく上でリーダーシップをとっていただける方がいれば検討したい。
- ・先ほどご意見のあった愛甲氏に引き受けていただけるとありがたい。事務局側で調整していきたい。

■山岳リクリエーション管理研究会 山口氏

- ・そのようにお願いしたい。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・山の現場の人だけでは解決は難しい、例として、登山メーカーや登山用品店を巻き込むのはどうだろうか。大雪山の携帯トイレはあるが、もう少し小さい形の携帯トイレは値段も安くていいものもある。しかし細かいところをいえば内側に使用するビニール袋がレジ袋並みのものなので、簡単に改善できるようなこともありそうだ。メーカーや登山用品店などにも参加してもらって、携帯トイレの改良を進めていくのはどうか。

■山のトイレを考える会 小枝氏

- ・検討事項の補足について、いつも鋭い意見をくださる登山道維持管理部会山守隊岡崎さんの意見を聞きたいところである。
- ・今後の作業部会の進め方について、事務局からたたき台がほしい、これからどうするのか事務局から聞きたい。事務局の考え方について次回の部会の前に知りたい。そして、その後に事務局側が事案についてそれぞれの団体の意見をまとめ、それぞれの団体に発信した上で2回目の部会を開催してはどうか。
- ・いろんな意見があると、それぞれの団体からの意見も出やすいのではないかと。共通認識があるといいのではないかと。事務局の進め方の案を聞きたい。

- ・欠席や、WEB 参加など、それぞれの団体からの意見を聞いて即座に意見するのは難しいと思う。事前にやりとりを聞いた後で、意見を聞いて自分たちの意見を伝えてほしい。そのような運営の仕方を考えてもらいたい。皆さんの意見のやりとりを聞いて、「私たちの意見はこうだ」と表明してほしい。
- ・会議で聞いているだけでは、反応ができない。何かよいやり方を考えてほしい。

■事務局 広野

- ・今回は初回の会議であり、検証課題が共有された中で、優先順位が出てくると考えられる。このため、事務局主体で最初から一方的に進めてしまうのはよくないと考えた。進め方について、みなさんの意見を伺った中で、今回の情報を元に情報整理し、検討課題を見やすくし、意見を聞き、そこから 2 回目の部会へ提案していく。
- ・避難小屋の常設トイレ整備に当たっての案、具体的な課題について、あらためて議論をいただきたい。
- ・進め方にはいろいろなアプローチの仕方がある、ご意見を踏まえた形での報告していく。

■NPO かむい 濱田

- ・せっかく WEB 等での参加ができる時代である、トイレにしても登山道にしても利用するのは、登山者であるから、登山者も参加できるようにしてみてもどうか。この部会についての内容を聞いてもらった上で、チャット、メールなどで意見を聞きたい。各団体の管理職の方だけで会議を進めるのではなく、利用者の意見を反映してほしい。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・進め方というよりは、気になっていることだが、大雪山入山料を進めているのに、トイレはないのはどうかという疑問がある。管理する方とすれば協力金は必要。利用する側としてはトイレもないのに入山料をとるといのはどうだろうか。この先協力金を進めていく上で工夫が必要。トイレだけではなく入山料を含めて考えていく必要がある。例えば、携帯トイレの代金、入山料を合わせる必要があるのではないか。

■事務局 広野

- ・いろいろな協力金があり、わかりやすい仕組みを考えていきたい。今はいろんな議論の過渡期にある。まだ見えてない問題もあることから、大雪山全体でまとめていきたい。

■山岳リクリエーション管理研究会 山口氏

- ・NPO かむい濱田氏の意見について、山岳トイレは大雪山環境保全のためにやっている。これらは大雪山ビジョン、携帯トイレ普及宣言を見ても理解できる。我々の議論だけで進むのは危険だが、利用者目線でトイレの議論はしてはいけないのではないかと考えている。

■事務局 広野

- ・ご意見ありがとうございます。利用の質を改善しつつ、自然環境保全を考えていくべき。自然環境の保全を軸に大雪山国立公園にふさわしい利用環境を実現していきたい。

■事務局 齋藤

- ・ご意見ありがとうございます。このような意見を伝える場は大切。利用者の目線について、自然環境の保護の観点についての例をお伝えする。
- ・トムラウシ南沼について。愛甲氏のコメントにもあった、踏み分け道の調査について、南沼では、人が入らなくなった場所はある程度植生が回復し、調査目的での踏み込みであっても躊躇われる箇所もある。プロジェクト開始から 6 年程度が経過して自然環境が回復し、わざわざ踏み入れての確認する必要のないくらいまでの回復を見せている。トムラウシは 100 名山の一つであるため、一見さんや、本州から来られる人も多い。
- ・濱田氏と山口氏折衷案のようになるかもしれないが、利用者がどう考え、どうすると利用しやすいのか、ひいては保護につながるのかというところもフォローしていきながら進めていけば、数年後環境保全にも役立つと、期待できるのではないかと。
- ・保護と利用のどちらかがよいとか悪いとかではなく、部会の規約の中でも構成員の中で外部の方を入れることができるようになっていっているので、臨時で部会に呼んでみたり、先ほど話題が上がったメーカーの方などと呼んで、こういった形であればよいのか聞いてみるのもよいのではないかと？

4. その他

■NPO かむい 濱田

- ・銀泉台 携帯トイレ回収 BOX について、カウンター押さない人が多い。ほぼ毎日数えているので、足りない部分については後からカウンターを押している。カウンターを押してくださいというポスターで啓発している。多少はよくなった。今のうちはやれるが忙しい時期には難しい。かなりカウンターを押さない人が多い。
- ・今年の山のトイレマップマップ（赤岳携帯トイレブース）で、実際には設置していないのに書いてあるとして、軽いクレームがあった。できれば、マップ配布施設では、昨年度版を 8 月まで使ってほしい。森林管理署から届けてもらっているが、まだ今年分は届いていない。黒岳の方は昨年度版を使っている。今年分は配布していない。8 月より配布予定。

■山のトイレを考える会 仲俣氏

- ・大函の浅野さん経由で発送予定している。携帯トイレブースについて環境省にトイレの情報をきいて載せてしまった。直接、濱田さんに聞けばよかった、申し訳なかった。どれくらい残っているかわからないが、昨年度版送ります。

■道北バス 福内氏

- ・7 / 1 から銀泉台バス運行している お客様に周知させたいのであればバスの中に、トイレ啓発のポスターを貼って協力したい。

■事務局 広野

- ・今回の資料を整理し、2回目の部会を今年度中に開催したい。
- ・最後に発言を勤労者山岳連盟にお願いしたい

■道央地区勤労者山岳連盟 伊吹氏

- ・裏旭のし尿問題について、茂みがない、夏場だけでもいいので中岳のような仮設テント式のブースほしい。
- ・避難小屋のトイレの再整備問題。白雲避難小屋で行われた携帯トイレの担ぎ下ろし代行サービスのようことを、ヒサゴ沼避難小屋で行い、携帯トイレ回収BOXを整備すると登山者は喜ぶのではないか。それにかかる費用は、入山料の徴収などをして行くとよいのではないか。縦走者は携帯トイレを運ぶのを嫌がるので、その点を考える必要があるのではないか。

■事務局 広野

- ・以上を持って、第1回大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。